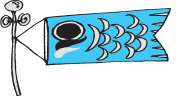


こんにちは！



企画課男女共同参画係です

日本は地震国と言われるほど、各地で大なり小なりの地震が発生します。それは時には、生命をおびやかすほどの大きなもので、これまで阪神大震災や新潟中越地震などが起きました。そして今また、能登半島地震の被災者が避難所での生活を送っています。

今回は、いつ、どこで起るかもしれない災害に備えて、女性の視点からの防災対策についてお届けします。もしも、私たちが…。(シミュレーションをしておきましょう。いざとなった時に、とても役立ちます。)

もしも、私たちの国東市で災害が起こり避難所生活をしなければならなくなったら…。



安全・安心な空間を確保しましょう

避難所では限られた空間で、多くの人が集団で生活をする事になります。被災者が増える二次災害を受けることがないように工夫を図りましょう。

- ・被災者の状況に応じて間仕切りをするなどの配慮。
- ・仮設トイレの設置は、特に女性や子どもの安全、安心を確保。
- ・男女別の更衣スペースを用意。
- ・乳幼児のいる家族に授乳、育児スペースを確保。
- ・女性用洗濯干し場の確保。

過去の震災で女性や子どもに対する暴力(DV、性犯罪など)が増加した調査報告があります。

みんなで共同して作業をしましょう

過去の大地震では、男性

が早い段階で職場に復帰し、不便で窮屈な中での家事や育児などの家庭的責任に対する負担が女性に集中し、特に中高年の女性に肺塞栓や静脈血栓が多いことが分かりました。下肢にできた血栓が血管を流れて肺の重要な血管を塞いでしまう病気で、地震発生後に残念ながら中年の女性が亡くなる悲劇がありました。このような事態が起こらぬよう、避難所内外での作業をみんなで行うことが重要です。

- ・食事の準備や片付け。
- ・行政との連絡。
- ・物資の配布など。
- ・ゴミの処理。
- ・共有スペースやトイレの掃除。
- ・見回りなど防犯対策。
- ・家の後片付けなどの復旧作業など。

男女のニーズの違いに的確な対応をしましょう

刻々と変化しつつある状況に柔軟に対応していくために、常に被災者のニーズを

把握するよう努めましょう。避難所の運営のあり方を決める際にも、被災者の声を幅広く聞くような工夫をしましょう。

- ・避難所の運営には、男性と女性の責任者を配置しましょう。
- ・被災者のニーズが把握できるように、女性の意見を積極的に聞きましよう。
- ・被災者が求める情報が正確に、避難所全ての人にわかりやすく伝わるように工夫をしましょう。(特に移動が困難な人や視覚・聴覚障がい者の人など)
- ・避難所生活や生活再建などの問題でストレスを抱えた人々のために相談窓口や意見箱の設置を考えましよう。

どうですか？ 少しイメージできましたか？ 本当は地震など災害がないのが一番ですね！